

川中先生のブログ 裏の畑ニ居リマスの私の医院

2014 年 05 月 29 日 06 時 17 分 53 秒



「下ノ畑ニ居リマス」これは宮沢賢治が羅須地人協会の玄関わきの黒板に書いていた言葉です。

うちの看護婦さん、最近は＜下ノ畑＞でなくて＜裏の畑ニ居リマス＞ことが多いです。

私の医院の職員の事務員さん、看護師さんは、農家の嫁さん、実家が農家、家庭菜園をやっている、等と畑に詳しい人ばかり。仕事が暇になると、これがあまりしばしばで困るんですが、医院の裏庭の畑に行って農作業をしてくれます。患者さんが途切れがちな最近では、農作業がはかどって、畑も立派になってきました。

それにしても、苗の育つのは早いですね。妻は植えるだけ、私もたまには付き合いますが、手入れするのは主に職員の皆さん。スナップエンドウ、キュウリ、ナス、カボチャ、トウモロコシ、そうめんウリ、ズッキーニ、プチトマト、空芯菜などなどを植え付けてい

ますが、早く実がなるのが楽しみです。

受付に人がいないので、来られた患者さんが『こんにちわ！』そして診察室から出てきた私の姿を見て『皆さんはどちらへ？』まるで流行らない食堂みたいな感じですが＜裏の畑にいます＞窓開けて＜お～い、患者さんで～＞

患者さんが来ると窓を開けて、職員を呼びます。

こんな気楽な医者をついで続けられるのか……。